ケーブル保護なら
イグス株式会社

田口型範

ものづくり現場発 埼玉・川口を行く

―6

商用車用の羽根車試作

微妙な削り強み 木型の技生きる

JR川口駅から北東へ約1㌔ほど離れた住宅地。スーパーが近くにあり、人通りの多い地域の一角に田口型範（埼玉県川口市）の工場はある。厚いガラスで覆われた5軸制御というマシニングセンターのなかでは、ボールエンドミルと呼ばれる機械が、手のひらに収まる大きさの銀色に輝くアルミの固まりを、まるで手のような巧みな動きで削り込んでいた。

「できあがりですよ」。そういって田口順社長（61）が手渡してくれたのがバラの花の形にも似たインペラーという部品で、車のターボエンジンに空気を送り込む羽根車だ。特に高い出力を求められる商用車や建機などに使われる。試作用では田口型範が世界シェアの3割を握る。

試作品が持ち込まれるということは商用車メーカーなどが田口型範に全幅の信頼を置く証しだ。

《会社概要》

▽本　　社	埼玉県川口市中青木2の20の15
▽創　　業	1947年
▽社　　長	田口順氏
▽事業内容	金型や木型、自動車部品の製造
▽従業員数	116人
▽売 上 高	14億円（2010年９月期）

削り出すデータ自体はコンピューターで設計できるが、「顧客から与えられたデータだけで製品を作るわけではない。コンピューターのデータを微調整し、実際の〝製品〟にするのが我々の仕事だ」と田口社長はいう。

データと製品の間を埋めるのが熟練作業員の経験と「顧客との丹念な意見のキャッチボール」（田口社長）。インペラーであれば、30年以上も前からフライス盤を使って加工しながら削り上げてきた積み重ねが生きている。寸法検査もしたうえで、発注から1週間ほどで5～10個の試作品を顧客企業に納品する。

金型の仕上げを手作業で行う
（埼玉県川口市の田口型範）

受注量は不安定だが、試作であれば価格競争が激しくないのが利点だ。試作段階から携わることで、量産段階での受注にもつなげやすくなる。

「タイに来ませんか」。技術力のある同社には30年も前からこんな海外進出の話が内外の自動車メーカーから寄せられるが、すべて断ってきた。「うちのように社員数が100人程度の規模の会社では、エース級の社員を海外に送り込むことは無理」（田口社長）というのが理由だ。

創業は戦後まもない1947年。川口市内の木型工場で修業していた順社長の父、故貞一氏が独立して開業した。三菱ふそうトラック・バスなど商用車のエンジン回りの木型の仕事が舞い込み業容を拡大。昭和30年代からは金型も製作するようになった。

ただ、同業他社が市場規模が拡大する金型に事業を移す中、同社は木型の火を消さなかった。もともとは木型職人という気概が、木型の技術を残さなければというこだわりを生んだ。現在では試作用の木型から量産用の金型まで手掛ける田口型範のような業態は珍しいという。

逆に発注先からは1カ所に依頼すれば済む点を評価されるようになった。重要な新製品の基になる木型や金型を複数の会社に発注すると機密が漏れる危険性もあるからだ。今でも同社の売上高の65%を占める主力は鋳造用の金型と木型。インペラーと同じく、試作段階で鋳物に命を吹き込む工程に強みを持つ。

同社の高い技術力を支えるのは長い経験を持つ技術者だ。約50人で全体の4割強を占める。エンジン部品などの場合、複雑な構造設計が必要で、コンピューターを使ったとしても簡単にはできない。10年、20年の経験がいる分野だ。そのため、人材は、時間と手間をかけて育成している。

福島県二本松市の主力工場では地元の工業高校出身者などが入社すると、約3カ月間はノミやカンナを使った手作業で木型を削り出す研修を実施する。最初は危なっかしくて見ていられないレベルでも研修を受け終わったころには形になる。実際に作り上げたという自信と経験が、コンピューターを使った設計に必ず生きるという。

高い技術があるとはいえ、日本の鋳造業界を取り巻く環境は厳しい。顧客企業が海外へ生産拠点を移す動きもあり、ここ20年間くらい売り上げは頭打ちという。そこで同社は医療など新分野への参入を模索する。「こんなことができますと、世界に向けてアピールしたい」。川口から日本のものづくりの底力を世界に見せつけようと地道な努力を続けている。

（井上孝之）

＝金曜日掲載

企業ホームペ

テル（東京・文京、和田憲治社長）は、米マイクロソフトの「エクセル」を利用してホームページを簡単に作成できるソフトウエアを開発した。文章や数値などを入力したエクセルシートを専用ソフトに移動するだけでホームページに内容を書き

00件の導入を目指す。

開発したソフトの名称は「エクセルCMS」。ホームページの作成は特殊な言語を用いたり、複雑な画面設定をしたりするため専門業者に依頼するケースが多いが、新ソフトを使えばエクセルに入力するだけで済む。内

削減できるという。

全体のレイアウトはリッテルが請け負う。企業のサイト管理担当者は画面上に設けた区切りごとに、エクセルシート上に記載したい文章や数値を入力。あらかじめパソコン内に入れておいたエクセルCMSに、このエクセルファイルを移動すると自動でホームページに反映される仕組み。

価格はレイアウト作成や初期のエクセル入力画面設定、ソフト導入などを含め30万円から。ブログのように文章や写真を簡単に書き込めるソフトはあったが、画面上に区切りを設けたり小見出しを付けたりといった複雑な画面設計に対応するのは珍しいという。

リッテル
を作る仕

エクセルで
ページの内

↓

エクセルフ
ホームペー
処理ソフト

↓

ホームペー

バレ

だが、実情は違った。最初のミーティング。選

男女の違い

れ』と頼んだのが初動でした。アドバイスで多かったのは、女性は自分だけが見られていることを意識するから、1対1なら耳を傾けるということ。まずは一人ひとりを呼んで個別に話をしました」

＝敬称略

18面に続く